

第5回 野津原中学校区適正配置地域協議会 会議要旨

日時：平成 27 年 2 月 5 日（木） 19:00～20:30

場所：野津原市民センター 大会議室

○出席者 28 名

1. 開会のことば

・秦副会長より、開会のことば。

2. 会長あいさつ

・分藤会長より、開催にあたってのあいさつ。

3. 議事

1 今後予想される日程（案）について

(1) 予想される日程（案）

・前回の協議会で示した日程（案）の内容を、より具体的にしたものについて説明する。

<主な質疑応答・意見>

【委員】実施計画策定後は、その計画に則って進めていくということか。

【事務局】この実施計画は、協議会で皆様から出していただいた意見をまとめた報告書を基に作成することになる。

(2) 各校区の意見

・各校区で取りまとめている統合に関する要望や意見等を発表する。

【東部小校区】通学支援に関しては通学距離が中部小の子どもより長くなる子や、福宗や辻原のように中部小校区を通ってくる子について、配慮をしてもらいたい。また、教室やグラウンド、育成クラブや駐車場等に関して、子どもの人数が増えた場合対応できるのかといった意見も出ている。中部小や西部小の保護者の方には東部小の実際の様子を知っていただくために、オープンスクールの日に来てもらうのもいいのではないだろうか。

【中部小校区】地域の方を交えて話をしたが、統合に反対との声もあり、これは仕方ないのかもしれないが先を見据えてしっかり考えないと本当に中学校までなくなってしまうというような、踏み込んだところまで考えて下さっている方もいる。地域の意見をどれくらい入れられるかが鍵となってくると思うので、報告書に盛り込めるような校区の意見や要望をできるだけ出し、実施計画が地域の思いを反映したものにできるように頑張らなければいけないと思っている。各校区で抱える問題は異なるが、1つの学校になるということらを皆で考え、問題点を拾い上げながらやっていく必要があるだろう。

【西部小校区】今でさえ今市小校区の方はバスで通学しているので、東部小に統合されたときの通学方法は、バスかタクシーという選択肢しかない。だから、バスであれば通常通り全額補助を、タクシーであれば子ども達が安全に乗り降

りできるところでやってほしい。今年もそうだが、児童数がかかなり少なくなっているの、学校運営が困難にならないようお願いしたい。

(3) 協議

・各校区からの発表を受けての意見を伺い、協議を行う。

<主な質疑応答・意見>

- 【委員】** 中部小校区から将来中学がなくなるのではという意見が出たとあったが、このままの状況で統合したとしても隣接校選択制や、中学に子どものやりたい部活がない等の理由で野津原中に子どもが来ない場合がある。人数が少なれば子どものやりたいことはできないし、中学に魅力がなければ子どもは来ない。このままだと子どもが減り、中学がなくなる可能性も高いので、そういったことについても考えて協議をしていってほしい。
- 【議長】** 東部小から出た校舎や学校の設備などに関する問題も、報告書のその他とかいったことで入れてもいいのか。
- 【専門委員】** 報告書は今までの協議で出た要望だけが入ってくるものではない。統合の時期や方法、通学支援の方法というものを定めていただきたい。校区ごとのものでも、協議会として取りまとめられたものであれば要望として入れるのは問題ない。
- 【委員】** 地域として将来のプランを見据えて話し合いをしなければいけないと思う。地域の一番の不安は、中学校の子どもが減っているという現状であり、そのことを考えて、小中一貫教育校を作ってはという話もある。だが、この協議会で協議する内容とは関係がないため、要望として報告書に入れていかないといけない。
- 【委員】** 学校がなくなると一気に地域の弱体化が進んでしまう。小中一貫校が何年後にできるというようなことがあれば、地域に人が戻ってくるかもしれないので、そういったいろいろなところも見て、しっかり話をし、報告書に盛り込んでいければ良いのではないかと思う。
- 【委員】** 各校区それぞれの意見を出して話し合い、理想的な形にしていくというのが一番いいと思うが、ある程度委員が考えを言えるような権限を認めるというのは難しいのだろうか。ここで出た意見を聞いて何か思っても言えず、地域に持ち帰ってまた次回出すということの繰り返しだ。
- 【専門委員】** この場でお話していただいているのは、各校区で話し合っていた結果だと考えている。個人の意見ではないけれど、この場で校区としてまとまった意見を発表し、他の校区の意見を聞き、代表として来ている方が再考し校区に伝えるということもあると思う。ここでは校区の意見をまとめて発表し、他校区の意見についても意見を言い、問題の一つ一つを解決していき、確認事項として積み重ねていきたいと思っている。
- 【事務局】** 地域の方々には協議会でどういった経緯でどのような話をしているかを地域協議会だよりを通じてお知らせしている。そちらを見ていただいて、傍

聴に来ていただいたり、校区で意見を言って委員の方に持って行ってもらえるような形でさせていただいているし、今後もそうするつもりである。

【委員】 今までどおりだと後3回しか協議ができないが、それで27年度中期頃に報告書ができるだろうか。

【専門委員】 今まで2ヶ月に1回という形で協議を行ってきたが、もっと必要ということで1ヶ月に1回行うということで話がまとまればそうすることは可能である。

【委員】 いずれ統合するというところで、西部小へ子どもが行かなくなっている。現在、西部小に行っている子どもやその保護者にとって、友達が少ないという環境は非常に残念だと私は思う。西部小の現状を考えると、統合について早く決めてあげた方が子ども達のためにはなるのではないかと思う。

【委員】 統合に向けていろいろと協議を行うのはいいと思うが、子ども達がそれによって振り回されているような状況が現にある。しかし、協議はしっかり行わないといけないので、2ヶ月に1回で間に合わないのなら1ヶ月1回といった形をとり、地域の方たちの意見を、代表として来られている方がしっかり聞いて、持っていき、議論し、こうした話になったと持ち帰る、ということの繰り返しを当分の間しないといけない。大変だと思うが、回数を重ねて進めていった方が良いのではないかと思う。

【委員】 中部小校区の年長の子どもがいる保護者からは、統合するのであれば早くしてほしいという声も上がっており、早く進めたいというものはある。だが、きちんと決めるべきことは決めないといけない。協議会が毎月になった場合、地域に持ち帰って話をしてから1ヶ月寝かせる必要もなくなるので、話も進めやすくなるのではないかとも思う。

【委員】 まずは目標を決めて合理的に話をするという気持ちで会議をした方がいいと思う。目標がなく、1年後でも2年後でもいいとか言っていたら議論ができなくなってしまふ。協議会の中でできるだけ早く問題点を出して、スピーディに論議をしていく必要があるだろう。

【議長】 協議会を1ヶ月に1回するかについては、次回話をしたいと思う。日程については意見もないようなので、27年度中に意見をまとめるという方向でいきたい。

【委員】 何を議論するか、時間がどれくらいかかるかは話を進めていって見ないとわからない。だから、いつまでという目標は定め、議論を密にし、いろいろな意見を聞いていくといいと思う。問題点の中には議論を進めていかないと出てこないものもあるかと思うので、実施計画を我々が納得できるようなものにするためにも論議を行い、できるだけ早く問題点を出して考えていかなければならないと思う。

○27年度中に意見をまとめ、報告書を作成する方向で協議していくことを確認した。
○協議会の実施間隔などについて、次回協議することを確認した。

2 統合に伴う通学支援について

(1) 基本的な考え方について

- ・事務局より通学支援についての説明する。
(質疑応答なし)

(2) 各校区の意見

- ・時間の関係で次回行うこととした。

(3) 協議

- ・時間の関係で次回行うこととした。

○校区の意見を次回発表し、協議することを確認した。

3 協議経過の引き継ぎについて

- ・事務局より、委員の交代がある場合の引き継ぎについて説明する。

4 その他

- ・事務局より、地域協議会の次回の日程について説明する。

○第6回地域協議会を4月30日(木)の19:00~20:30、野津原市民センター大会議室で開催することを確認した。

5. 閉会のことば

- ・秋吉副会長より、閉会のことば。